

大使による講話

- 新型コロナウイルス感染症が発生して、1年が経ちました。この間、我々の生活は大きく変わりました。生活において、マスクやアルコールジェルなど感染対策も欠かせなくなりました。このあと、皆さんで意見交換をしたいと思います。各団体の活動もかなり制限されてしまったと思います。そして、最近のニュースでは、ワクチンが大きく取り上げられています。
- この新型コロナウイルス感染症の対策は、1つの国でできるものではありません。世界が協力して取り組んでいかなければならない問題です。本日は、皆さんに、日本がブラジルにどのような取組をしているか紹介したいと思います。
- 1つ目は、ブラジルに対して機材や対策のための資金の支援を行っています。

日本政府は、UNOPS を通じて、ブラジルにおける新型コロナウイルス感染症対策として、約 467 万ドルの支援により、CT スキャナー等の医療機材を、全国の医療機関に提供することを決定し、実施する予定です。また、PAHO を通じて感染防止対策のためにブラジルへ約 48.5 万ドルの支援を実施しました。

そして、JICA を通じて、サンタクルス病院におけるコロナウィルスの院内感染防止の活動支援として、ICU と一般病床を担当する看護師を区分するゾーニング計画を策定し、ゾーン毎に患者も含めどのような対策をとるかを分かりやすく記載したガイドラインを作成する等の活動支援を実施しました。
- 日本大使館自体も様々な支援を行っています。**GDF** に対して昨年 6 月にアルコールジェル、食器用洗剤、洗濯用液体洗剤及びマスクの寄付を行いました。先日も医療用手袋を 4000 個寄付したところです。

- 2つ目は知見の共有です。

日本大使館はインターネットを活用して日本の取組について、様々な情報発信をしています。「Café com o embaixador」という企画をご存じですか？その動画で日本の取組を説明しています。
- そして、我々は昨年6月にPAHOと保健省と共催で、日本のコロナ対策を紹介するための専門家会合を実施しました。

また、今年の10月1日にはブラジル文協とともに、新型コロナの日本の取組についてウェビナーを企画・開催し、日本の岡部先生・大曲先生にも参加いただきました。
- また、ブラジルでは学校の対面授業は再開しつつありますが、昨年6月には日本では対面授業を再開していて、その対策を解説した動画も公開しています。その後、連邦下院議会からの求めに応じ、オンラインによる下院特別委員会でも私がこの件について説明しています。
- 3つ目は、日本国内のブラジル人を含む外国人への支援です。

今は、外国人の日本への入国は困難ですが、日本政府は、日本で暮らす外国人にも支援を行っています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、アルバイト収入の激減などにより、勉強を継続することができない学生に対して、お金を支援するため、531億円の予算を計上しています。この支援には、外国人留学生も含まれています。
- そして、今年の夏は延期された東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。日本政府は、現在、開催に向けて準備を進めています。皆さんも、オリンピック・パラリンピックがどうなるか関心をもっていることでしょう。来月、日本大使館はABRAEXの協力を得て、オリンピック・パラリンピックについてのウェビナーを開催します。後ほど、ABRAEXから紹介があると思いますが、是非、多くの方々に見ていただきたいと思います。

- 元国費留学生、JICA 研修生の皆さんも、それぞれの立場で新型コロナウイルス対策のために様々な取組を行っている方も多いと思います。もし、日本政府や日本企業等の協力が欲しいときは、日本大使館及び近隣の総領事館に相談してみてください。

- 新型コロナウイルスについては、まだまだ先が見えない課題です。皆で前を向いて、支え合って協力していければ、きっと現在のこの困難も乗り越えられると思います。引き続き共に頑張りましょう。